

# 子どもと女性の健康相談室

94



福島医大付属病院小児外科  
教授・移植医療部長  
田中 秀明氏

肝臓は小児では体重の約3%を占める最大の臓器です。炭水化物、タンパク質、脂肪の代謝、合成、貯蔵に加え、有害物質の解毒、胆汁を分泌して消化吸収を助けるなど、多くの大切な働きを担っています。

死と診断されている場合（脳死肝移植）と、親などの健康な親族の方から肝臓の一部をもらう場合（生体肝移植）に分かれますが、日本では生体肝移植の割合が圧倒的に多いという現状があります。親子間といえども他人の臓

子どもに肝臓移植を行う病気で最も多いのは胆道閉鎖症です。出生前後から胆汁の流出路である胆管の閉塞（へいそく）が進行する病気で、頻度は約1万人に1人です。便の色が白くなるのが特徴で、診断がつき次第、

はそれまで異常のなかった肝臓が急に機能しなくなるもので、原因として代謝性、ウイルス、薬剤などがありますが、多くは原因不明です。小児集中治療室（PICU）や集中治療室（ICU）にて血液をろ過するなどの治

間約50〜70人の頻度で発生します。まずは抗がん剤で腫瘍を小さくし、その後腫瘍を含む肝臓の領域を摘出することを目指します。しかし腫瘍が肝臓全体に広がっている場合などは肝臓移植を検討しなければなりません。

## 胆道閉鎖症 最も多く

肝臓の機能が低下し内科的治療が効かない場合に肝臓移植、つまり病気の肝臓を全て取り出し、健康な肝臓と取り換える治療を検討します。肝臓移植は、肝臓を提供する方が脳

器ですので、移植後のお子さんは拒絶反応（いただいた臓器を排除しようとする免疫反応）を予防するため、生涯にわたり免疫抑制剤を飲み続ける必要があります。

病気の胆管を切除しそこに腸をつなぐ手術（葛西手術）を行います。多くの場合その後黄疸（おうだん）が良くなりませんが、肝臓の障害が進む場合は肝臓移植が必要となります。

療を行います。良くなる場合も肝臓移植を急ぎます。肝芽腫という肝臓のがんもその治療の過程で肝臓移植が必要となることがあります。3歳以下のお子さんに多く、腹部のしこりで気付かれ、日本全国で年

### 子どもの肝臓移植

劇症肝炎という病気

付かれ、日本全国で年

私は肝芽腫の切除を含め肝臓移植を専門分野の一つとしています。手術の際は肝胆膵（すい）・移植外科学講座と合同で、生体および脳死肝移植の両方を行っています。重症なお子さんに移植を行う場合も、小児科学講座の各専門グループや集中治療部等との強力なチームワークにより、手術前後の治療に当たっています。当院の移植医療の現状については移植医療部ホームページをご参照ください。

次回は2月19日掲載